

## 第 2 章 計画の推進方針

### 第 1 節 SDGsの活用

本基本計画の推進にあたっては、SDGsの広がりを好機と捉えて活用します。

そのため、SDGsと総合計画の施策の関連性を明らかにし、各施策に基づく事務事業の実施にあたっては、SDGsの推進や活用を個別に検討していくことを基本姿勢とします。

また、SDGsを的確に踏まえた事務事業については、概ね3年ごとに策定する実施計画に登載し、事務事業行政評価を通じて総合的かつ着実に進行管理します。ていくことで、

このような取組に併せて、市民・団体・事業者等によるSDGsを推進する取組との連携、支援を行うことで、SDGs達成に貢献するとともに、本基本計画とSDGsの同時推進が生み出す双方向の相乗効果により、さらなる計画推進を図ります。

※ SDGs対応表はP20、P294に掲載しています。

### SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略) とは、2015 (平成27) 年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2016 (平成28) 年から2030 (令和12) 年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴールと、それを実現するための169のターゲット (達成目標) で構成されており、地球上の「誰一人取り残さない」と誓い、包摂的な社会の実現をめざして、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むこととしています。



■ SDGs 17のゴール (ロゴ)

出典：国際連合広報センターWEBサイトより

## 施 策

25

## 生きる力を育む学校教育の充実

## 施策の目的

児童生徒一人ひとりの特性を活かした適切な教育を進めるとともに、教職員の資質・能力の向上を図ることなどを通じて、子どもたちの生きる力の育成をめざし、確かな学力と豊かな心、健やかな体を養う教育活動の充実に取り組みます。

## ◆成果指標

| 成果指標名                 | 指標の説明  | 直近値   | 中間目標値<br>(令和7年度)                          | 最終目標値<br>(令和12年度)                    |
|-----------------------|--|---|---|--------------------------------------|
| 国語、算数・数学の学力の全国平均値との比較 | 全国学力・学習状況調査結果において、全国平均正答率を100としたときの比較                              | 小学校：<br>国96・算101<br>中学校：<br>国91・数87<br>(令和元年度)                    | 小学校：<br>国・算 105<br>中学校：<br>国・数 100        | 小学校：<br>国・算 105<br>中学校：<br>国・数 100   |
| 授業に対する児童生徒の肯定的な評価の割合  | 全国学力・学習状況調査結果において、児童生徒質問紙の「国語、算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的な回答をした割合 | 小学校：<br>国83.8%・<br>算81.6%<br>中学校：<br>国71.6%・<br>数69.4%<br>(令和元年度) | 小学校：<br>国・算85.0%<br>中学校：<br>国・数75.0%      | 小学校：<br>国・算87.0%<br>中学校：<br>国・数80.0% |
| 自己肯定感の高い児童生徒の割合       | 全国学力・学習状況調査結果において、児童生徒質問紙の「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に肯定的な回答をした割合      | 小学校：81.9%<br>中学校：70.7%<br>(令和元年度)                                 | 小学校：83.0%<br>中学校：73.0%                    | 小学校：85.0%<br>中学校：75.0%               |
| 体力調査における全国平均との比較      | 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果において、全国体力合計点との差（高知市の得点-全国の得点）                   | 小5男：-1.05点<br>小5女：-0.96点<br>中2男：-0.59点<br>中2女：-1.20点<br>(令和元年度)   | 0点以上                                      | 0点以上                                 |
| 不登校児童生徒の割合（出現率）       | 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸注意に関する調査における不登校児童生徒の割合                            | 小学校：1.05%<br>中学校：5.13%<br>(令和元年度)                                 | (注)<br>小学校：<br>0.70%以下<br>中学校：<br>3.65%以下 | (注)                                  |

(注) 2019(令和元)年度の全国値が公表され次第、中間目標値を再設定します。2030(令和12)年度の最終目標値は、2025(令和7)年度の全国値とします。

## 現状・課題

### ◆知・徳・体の充実

知・徳・体のバランスのとれた力の育成をめざすにあたっては、児童生徒に必要な資質・能力を育成する取組が求められています。

また、子どもたちの進路を保障し、生きる力を育むための学力向上への取組と道德教育の充実を図るとともに、家庭・地域が連携し、豊かな心を育み、より良い生き方をめざす子どもの育成が求められています。

体力については、全国平均の水準を維持するとともに、さらなる体力の向上をめざすため、運動に親しむ取組が求められています。

### ◆保・幼・小連携の充実

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼児期にふさわしい生活の中での主体的な活動を通し、育成をめざす資質・能力の基礎が育まれています。小学校学習指導要領に示されたように、保・幼・小連携の取組を通して、互いの保育・教育や幼児期から児童期への発達の流れを幼稚園教諭等と小学校教員が理解し、それらを踏まえながら小学校教育を進めていく必要があります。しかし、本市においては、小学校区に複数の園があることや、一つの小学校に30以上もの園から幼児が入学してくることもあることなどから、連携を進めにくい状況があります。

そこで、保・幼・小連携推進地区事業を土台にして「人・組織・教育をつなぐ取組」を充実し、各園における幼児の自発的な遊びを中心とした総合的な指導のあり方と子どもの育ちを理解し、小学校においても児童が主体的に自己を発揮できるような学習活動を工夫することで、小学校以降の学力向上や不登校対応の基盤を成す、学びに向かう力を育むことが求められています。

### ◆小・中学校連携の充実

学習指導要領に示すところに従い、義務教育9年間を通じて育成をめざす資質・能力を明確化し、その育成を高等学校教育等のその後の学びに円滑に接続させていくことが求められています。小学校段階では、学級担任が児童の生活全般に関わりながら、各教科等の指導を含めた児童の育ちを全般的に支えることを通して、幼児期の教育の成果を受け継ぎ、児童に義務教育としての基礎的な資質・能力の育成を、中学校段階では、学級での日常的な指導と教科担任による専門性を踏まえた指導とを行う中で、小学校教育の成果を受け継ぎ、生徒に義務教育9年間を通して必要な資質・能力の育成をめざす教育を行うことがそれぞれ求められます。

本市においては、一つの中学校区に含まれる小学校は1校から5校とさまざまですが、中学校区ごとに校区の小学校と連携し、学校段階間等の接続を円滑に図ることが大切です。

### ◆教職員の資質・能力の向上

次代を生きる子どもたちの資質・能力を育成するために、新しい教育への転換が求められています。また、社会の急激な変化に伴い、学校現場が抱える課題も複雑化・多様化する中、教職員に求められる役割が一層多様化しています。そうした中でカリキュラム・マネジメントの確立、道德教育や外国語教育の充実、ICT\*の活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応など新しい教育課題に対応する研修の実施や、課題解決に向けて、校内で必要に応じて関係する専門家と連携した組織として取り組んでいく「チームとしての学校」を実現するための学校のマネジメント機能の強化が求められています。

また、教員の世代交代も急激に進む中で、教職員一人ひとりのキャリアステージに応じて求められる資質・能力の育成は、OJTとOff-JT\*の連動により、計画的に進めることが必要です。さらに、学校現場を主体とした「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の取組等を通して、教職員の実践力の向上を図ることが求められています。

### ◆学校のICT環境整備及び活用

これまで計画的に進めてきた学校へのICT機器の整備に加え、「GIGAスクール構想の実現」に向け、児童生徒一人1台端末の整備及び校内の高速大容量通信ネットワーク整備とともに、高知市独自の取組による、全普通教室への電子黒板の設置及びデジタル教科書の整備も進めています。

これに伴い、これまで以上に、教員がICT機器の操作に慣れていくことや授業等への活用を推進することが必要であり、学校全体としての取組を進めるためにも、教員の育成や幅広い支援等が急務となります。

また、プログラミング的思考等を育むプログラミング教育の実施においては、児童生徒の生活や教科等の学習と関連付けつつ、発達の段階に応じて位置付けていくことが求められています。

### ◆いじめ・不登校等の生徒指導上の課題への対応の充実

子どもが安全・安心な落ち着いた学校生活を送るためには、予防的・組織的な生徒指導の取組を進め、いじめ・不登校・問題行動等への対応力の向上を図っていくことが必要です。

また、子どもたちに将来への展望を持たせ、主体的な活動を通して成長を促すとともに、規範意識の醸成を図る取組が求められています。

### ◆特別支援教育の充実

障がいの有無にかかわらず、誰もが共に学ぶことのできるインクルーシブ教育システム※の構築に向け、特別な支援が必要な児童生徒一人ひとりのニーズに応じた通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった「多様な学びの場」の提供と適切な支援が求められます。

校内支援体制の整備の強化を図り、教職員の資質向上を図るとともに、通常の学級における特別な支援を必要とする子どもに対しても、ニーズを把握し、合理的配慮の適切な提供が求められています。

## 重点的な取組

### ◆知・徳・体の充実

基礎的・基本的な知識・技能の定着と活用力向上をめざして、学力向上アクティブ・プランの着実な推進により、小学校学力を全国トップレベル、中学校を全国平均まで引き上げるとともに、小学校中学年における外国語活動と、高学年における外国語科の新設に伴い、グローバル社会に適應する外国語教育の一層の充実に取り組みます。併せて、志を高めるためのキャリア教育を推進しながら、進路指導の充実に取り組みます。

高知みらい科学館では、理科好きの子どもを増やすため、プラネタリウム学習や実験学習を行う科学館理科学習や校外学習の受入れなど、理科教育の振興に取り組みます。

道徳教育のさらなる充実を図るために、家庭や地域との連携・協力を深め、豊かな体験を通して、児童生徒の内面に根ざした道徳性の育成に取り組みむとともに、体力調査結果の分析を行い、指導方法の工夫・改善により、児童生徒の体力向上に取り組みます。

### ◆保・幼・小連携の充実

保・幼・小連携を推進する「保・幼・小連携推進地区」等の取組における教職員の交流・連携等を通して、年長後期のアプローチカリキュラム※（5歳児後半の年間指導計画）と小学校入学期のスタートカリキュラムを合わせた接続カリキュラムの充実に取り組みます。また、小学1年生に特化した「小1サポーター」の人的支援とともに、小学校入学期のスタートカリキュラムの質的向上を図る小1プロブレム対策事業の充実を図り、子どもたちの安心・成長・自立をめざします。

併せて、リーフレット等を活用し、年長児保護者への情報提供を積極的に行うことで、小学校入学時の安心感を高めます。

## ◆小・中学校連携の充実

小・中学校の連携を図るため、中学校区ごとの合同研修会や、小・中学校の教職員による情報交換を行います。義務教育段階において身に付けるべき学習内容を、教科ごとの系統性を意識した学習指導に生かす授業研究や、進級や進学に伴う児童生徒への支援を切れ目なく行うため、児童生徒理解を含めた教育活動の接続を図ります。

併せて、義務教育修了となる中学校卒業時には、高等学校以降につながる学力の定着と資質・能力の育成をめざします。

## ◆教職員の資質・能力の向上

ＯＪＴとＯｆｆ－ＪＴの有機的な関連を図り研修効果を高めるために、研修のあり方を一層工夫し、課題解決に向けて個業ではなく組織で対応する「チームとしての学校」が機能するよう、学校のマネジメント機能を強化します。

また、複雑化・多様化した課題を解決するために、他機関との連携を踏まえ学校が組織として機能し、同じ方向に向かって、共に支え合い努力し合う仲間やその体制の中で学び続ける姿勢を高めていけるよう、メンター制度や教科部会、学年会等を活用したＯＪＴの充実を図り、計画的な人材育成を推進していきます。

具体的には、中学校の教科の「タテ持ち」の導入により定期的に行われる教科会を、若年教員の資質・指導力の向上、知識や技能等の習得の場とし、日常的にＯＪＴを行います。小学校においても、2019(平成31)年度から導入が始まった、ベテラン教員やミドルリーダークラスの教員が指導・相談役(メンター)として若年教員(メンティー)を育成する「メンターチーム」を校内に設置し、チーム内で学びあう「メンター制」により、組織的な育成の仕組みを整えていきます。

このように、急激に進む教職員の世代交代に伴う「育成」の課題について、学校経営と授業改善を中心とした学力向上の取組の両面から支援を行うことで、学校の組織的で主体的な教職員の資質・能力の向上を図ります。

## ◆学校のICT環境整備及び活用

児童生徒一人1台の端末をはじめ、電子黒板及びデジタル教科書の整備等、ICT環境が整った状況の中、新たな学びのスタイルを創り出すためには、ICT機器の操作や教育活動における活用を含めた、教員の資質・能力の向上が必須となります。

そのため、高知市立学校におけるICTの活用を支援するため、産学官連携による「高知市立学校ICT活用推進協議会」において、研究及び協議を進めながら、ICTの活用推進のための研修や講座の開催及び先進的な活用事例の提供などを行います。

また、プログラミング教育においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に資するものをめざしながら、発達の段階に応じた学習を進めていきます。

## ◆いじめ・不登校等の生徒指導上の課題への対応の充実

いじめや暴力、不登校等を生じさせないために、学級経営の充実を図り、どの子どもにも居場所となる学校・学級づくりに努めるとともに、学校カウンセラーや臨床心理士等の配置による相談体制の整備を含む学校の組織的対応力を高め、各関係機関とも連携し、一人ひとりの子どもへの教育的ニーズに応じた支援体制の充実を図ります。

併せて、17名のスクールソーシャルワーカーを各中学校区に派遣し、それぞれの学校からの要請により事業に取り組み、「福祉の専門家」として、児童生徒の置かれた環境改善の好転に向けて、福祉、医療、保健、労働等の関係機関と連携強化を図るとともに、教育支援センターに「心理の専門家」である臨床心理士1名を常駐できるよう配置し、不登校状態の児童生徒への心のケアを図ることで、状態の解消や緩和に努めます。さらに、学校の校内不登校支援委員会に、指導主事等が積極的に参加し、不登校状態の児童生徒への個別支援等への助言等を行います。

また、学校、家庭、関係機関や地域の方々と日常的な情報交換に努め、地域ぐるみのチーム学校でいじめ・不登校等の防止に取り組みます。

#### ◆特別支援教育の充実

特別支援学級担任及び特別支援学校教員の資質・指導力の向上を図るため、特別支援教育スーパーバイザーによる、児童生徒のアセスメントや授業づくりの訪問支援を実施します。

各学校で、誰もが「分かる」「できる」「楽しい」授業づくりや安心して過ごせる環境づくりなどユニバーサルデザイン※に基づいた授業改善や環境整備に取り組みます。

障がいのある児童生徒及び通常の学級における特別な支援の必要な児童生徒については、教育相談機能を充実させるとともに、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成する中で、合理的配慮の提供について合意形成を図り、特別支援教育の充実に取り組みます。

## 施 策

31

多様で魅力的な  
芸術・文化活動の推進

## 施策の目的

市民が芸術・文化に触れ親しむ機会を充実させるとともに、文化の担い手の育成や、文化施設の積極的な利活用を推進することで、芸術・文化の振興を通じた心豊かな暮らしの実現をめざします。

地域に根ざしたまんが文化を定着させながら、その裾野を広げるとともに、「まんが王国土佐」を全国に発信していくことで、まんが文化をまちの魅力と活力の創出につなげます。

## ◆成果指標

| 成果指標名                     | 指標の説明  | 直近値              | 中間目標値<br>(令和7年度) | 最終目標値<br>(令和12年度) |
|---------------------------|--|------------------|------------------|-------------------|
| 芸術文化を鑑賞または芸術・文化活動を行う市民の割合 | 市民意識調査で「この1年間で芸術文化を鑑賞または芸術・文化活動を行った」と回答した市民の割合 | 45.0%<br>(令和2年度) | 45.2%            | 45.4%             |
| 高知市展への出品数                 | アンデパンダン形式(無審査・無賞形式)の美術展(10部門)への出品数             | 666点<br>(令和元年度)  | 700点             | 700点              |

## 現状・課題

## ◆芸術・文化活動の推進

多様で魅力的な文化鑑賞や創造の場を提供し、さまざまな広報手法により、広く情報提供されることが求められています。

また、既存施設の展示物の魅力を再発見し、十分に伝えることができるよう、人材育成やネットワークづくりが求められています。

より多くの市民が、日常生活の中で気軽に芸術文化に触れることができるよう、市民の芸術・文化活動を支援し、活動団体の交流を促進する取組とともに、幼少期から芸術文化に親しむ環境づくりが求められています。また、芸術文化に取り組む市民が、自由に集い、連携し、新たな文化を創造できる仕組みづくりが求められています。

文化振興の拠点施設である高知市文化プラザや春野文化ホールピアステージ等、経年により施設整備更新が必要になっていることから、施設の長寿命化を図るため、順次、長寿命化改修等に着手することとしています。

## ◆まんが文化の振興

これまで、本市におけるまんが文化を活用したまちおこしの取組や人材育成、まんが文化の情報発信に取り組んできた結果、国内関係者に本市がまんが活用先進地であることが認知されてきました。横山隆一記念まんが館には、今や日本を代表する文化の一分野であるまんがの歴史の研究や資料の保存などが期待されています。

しかし近年、厳しい財政状況により、集客力があり、市民からの関心も高い人気作品の全国巡回展などの開催ができない状況が続いています。このため、まんがを活用した中心市街地への来街の促進やまちおこしに十分な成果を上げられていないという課題があります。

## 重点的な取組

### ◆芸術・文化活動の推進

高知市文化プラザや春野文化ホールピアステージをはじめとした、芸術文化の拠点施設において、市民ニーズに対応した活動機会の提供を行い、従来の広報活動に加え、SNS※(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を活用し、若い世代を含めた、より多くの方に向けた情報提供に取り組みます。

また、施設の魅力を十分に伝えるための経営感覚を持った専門的職員(アーツマネージャー※)の育成に取り組み、各種団体とのネットワークづくりに取り組みます。

多彩な芸術文化の鑑賞機会の提供に努め、アーティスト自らが行うアウトリーチプログラムやワークショップの実施により、芸術文化に触れる機会の少ない市民にも、身近に芸術文化を感じてもらえるよう取り組みます。

また、アーティストが学校現場に出向き、学校と協力しながら、児童生徒と芸術文化に対するワークショップを開催するなど、幼少期から芸術文化に接する機会の提供に取り組みます。

**こうしたアウトリーチ活動を通じて、芸術文化に触れる機会を広く市民に届けることによって、新たに本市の芸術・文化活動を推進、創造していく人材育成につなげます。**

文化施設の整備については長期計画に基づき、順次取り組みます。

### ◆まんが文化の振興

日本のまんが史における横山隆一の功績を研究することで得られた、まんが史に関する研究成果を残していくことも含め、まんが館の活性化に努めます。

これからの高知のまんが文化を新たに創造していく人材育成のために、高いレベルの作品を見て学んでもらえるような質の高い企画展を実施するほか、さまざまなまんがに関する情報を発信していきます。

また、まんが文化を通じた中心市街地の賑わい創出のため、県や県内企業、周辺商店街等と連携を取りながら、国内観光のみならず海外からの誘客にもつながるような事業展開に取り組み、地域の活性化に貢献します。

## 施策

24

## 心と体の健やかな成長への支援

## 施策の目的

食育を推進し、適切な生活習慣の習得を支援するとともに、子どもたちの健全な成長を周りの大人が見守り支えることで、子どもたちが生涯にわたって健やかな心と体を培い、夢と希望を持って成長することができる環境を整えます。

## ◆成果指標

| 成果指標名                                       | 指標の説明  | 直近値                               | 中間目標値<br>(令和7年度)       | 最終目標値<br>(令和12年度)      |
|---|--|-----------------------------------|------------------------|------------------------|
| 朝食を毎日食べている児童生徒の割合                           | 全国学力・学習状況調査結果において、児童生徒質問紙の「朝食を毎日食べている」の質問に肯定的な回答をした児童生徒の割合                           | 小学生：85.4%<br>中学生：76.8%<br>(令和元年度) | 小学生：95.0%<br>中学生：90.0% | 小学生：95.0%<br>中学生：90.0% |
| 高知チャレンジ塾 <sup>※</sup> の登録者充足率への参加希望者に対する受入率 | 高知チャレンジ塾の受入可能生徒数(400人)に対する参加申込をした生徒の割合<br>高知チャレンジ塾へ参加申込をした生徒数に対して登録者として受け入れをした生徒数の割合 | 83.3%<br>100%<br>(令和元年度)          | 100%                   | 100%                   |
| 学校給食における地産地消率                               | 学校給食における県内産食材の使用割合(食材数ベース)   | 48.5%<br>(令和元年度)                  | 50.0%                  | 50.0%                  |

## 現状・課題

## ◆食育の推進

成長期の児童生徒の健全な育成を図るためには、食に関する正しい知識の習得や生活習慣の確立、学校給食における地産地消の推進など、自らの健康を管理することができるよう食育を推進することが求められています。

## ◆子どもの健やかな成長を見守り支える環境づくり

子どもの健やかな成長のためには、一人ひとりが大切にされていることを感じられる環境が必要であり、地域社会が、子どもを見守り、支える仕組みづくりが求められています。

## ◆子どもたちが将来に夢と希望が持てる環境づくり

家庭の経済的な環境は、子どもの健やかな成長や学習意欲に影響を与える要因の一つです。生まれ育った環境によって、将来が左右されることなく、夢と希望を持って成長していける環境づくりが求められています。

## 重点的な取組

### ◆食育の推進

子どもたちが基本的な生活習慣を身に付け実践できるよう、義務教育9年間を通じた食育の推進を中心として、関係機関が連携を深めながら、食に関する指導や相談体制の充実を図ります。

### ◆子どもの健やかな成長を見守り支える環境づくり

保護者が子育てについての第一義的責任を有することを基本として、学校を核として、学校・家庭・地域及び福祉関係機関など、社会全体が連携しながら、支援に取り組みます。

### ◆子どもたちが将来に夢と希望が持てる環境づくり

子どもの貧困<sup>\*</sup>の実態把握に取り組むとともに、高知チャレンジ塾の推進など学習支援や、ひとり親家庭をはじめとする保護者への就労支援などの経済的自立を進めることなどで、子どもの貧困対策を総合的に推進することにより、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、子どもたちが将来に夢と希望が持てる社会づくりに取り組みます。